

グリーンボンド / グリーンボンド・プログラム 外部レビューフォーム

セクション1. 基本情報

発行体名:	株式会社ウエストホールディングス
グリーンボンド又は フレームワークの名称	第3回無担保私募債
外部レビュー者名:	株式会社 日本格付研究所
本フォーム記入日:	2020年2月25日
レビュー公表日:	2020年2月25日

セクション 2. レビューの概要

レビュー対象

本レビューでは、以下の要素について審査し、グリーンボンド原則との適合性を確認した。:

- | | |
|--|--|
| <input checked="" type="checkbox"/> 資金使途 | <input checked="" type="checkbox"/> プロジェクトの評価と選定プロセス |
| <input checked="" type="checkbox"/> 資金管理 | <input checked="" type="checkbox"/> レポーティング |

ROLE(S) OF Independent External REVIEW PROVIDER

- | | |
|------------------------------------|--|
| <input type="checkbox"/> セカンドオピニオン | <input type="checkbox"/> 認証 |
| <input type="checkbox"/> 検証 | <input checked="" type="checkbox"/> スコアリング/格付け |
| <input type="checkbox"/> その他: | |

注:複数のレビュー、異なる提供者がいる場合、レビューごとに個別のレビューフォームを提供してください。

レビューのサマリー 及び 評価レポート全文へのURLリンク

株式会社ウエストホールディングスは、トータルエネルギーソリューション企業として、太陽光発電を中心とした再生可能エネルギー事業、省エネ事業、電力事業を行うウエストグループの持株会社である。1984年5月に西日本鐘商株式会社として設立後、1985年4月に西武ハウス工業株式会社、1989年6月に株式会社ウエストに改称、2006年3月に持株会社体制に移行し、現在に至る。設立当初は住宅サービス事業を営み、2006年の太陽光発電事業参入後、2012年には太陽光を主力事業と位置付け、メガソーラーから中小規模の産業用太陽光発電、住宅向け太陽光に至るまで、太陽光の事業開発・施工・O&Mといった太陽光事業全般への取り組みを順次開始した。2014年以降はそれらの取り組みに加え、太陽光を中心とする再生可能エネルギーを軸とした事業領域におけるトータルエネルギーソリューションの実現に向け、最適な省エネサービスの提供を目指すウエストエスコのほか、再生可能エネルギーの活用を目指した新電力事業、エネルギーソリューションを活用した地方創生、タイ王国での海外展開といった事業にも着手するなど、多種多様なサービスを展開している。

ウエストホールディングスは全国各地の地域金融機関や自治体と提携し、環境取り組みを推進する経営姿勢を特色としており、環境および地域創生・活性化への取り組みを通じた積極的な事業展開を経営の主眼としている。今回評価対象となる私募債（本私募債）の資金使途は太陽光発電設備2件の建設資金に対するリファイナンスである。同設備の年間CO2排出削減量は、約739t-CO2/年と見込まれており、環境改善効果を有する。また、ウエストホールディングスは社内における許認可申請や事前説明、環境アセスメント等を通じ、事業実施に際して想定される環境への負の影響を特定し、適切な回避・緩和策を講じている。以上より、JCRは本私募債の資金使途について、環境改善効果を有すると評価している。

資金使途の選定については、グリーンファイナンス・フレームワークに定められたプロセスに従って評価・選定が行われ、ウエストホールディングスないしはグループ会社であるウエストエネルギーソリューションの取締役会にて機関決定が行われている。また、グリーンファイナンスによって調達された資金はあらかじめ選定された個別のプロジェクトに全額が紐付けられるほか、追跡管理および内部統制にかかる体制についても十分に構築されている。資金の充当状況および環境改善効果にかかるレポート内容についても適切なものとなっている。したがって、JCRは本フレームワークについて、調達資金に関する管理運営体制が確立されているとともに、投資家に対する透明性を有するものであると評価した。

この結果、今回の評価対象である私募債について、JCRグリーンボンド評価手法に基づき、「グリーン性（資金使途）評価」を“g1”、「管理・運営・透明性評価」を“m1”とした。この結果、「JCRグリーンボンド評価」を“Green 1”とした。

JCRは、本社債は、グリーンボンド原則 および環境省によるグリーンボンドガイドライン において求められる項目について基準を満たしていると評価している。

評価レポート全文へのURLリンクは以下をご参照。

<https://www.jcr.co.jp/greenfinance/>

セクション 3. レビューの詳細

レビュー者は、できる限り以下の情報を、コメントの枠を使用し、できる限り提供することが推奨される。

1. 資金使途

本項目に係るコメント欄：

a. プロジェクトの環境改善効果について

- i. 資金使途の100%が太陽光発電設備の建設資金に対するリファイナンスであり、環境改善効果を有する。

- ii. 資金使途は、グリーンボンド原則または環境省のグリーンボンドガイドラインに定義されているグリーンプロジェクトのうち、「再生可能エネルギー」に該当する。

b. 環境に対する負の影響について

ウエストホールディングスは本発電設備の建設にあたり、グリーンファイナンス・フレームワークに基づき、社内において許認可申請や事前説明、環境アセスメント等を行っている。JCRはウエストホールディングスが本発電設備の建設に際し、土木工事仕様書記載の現場施工不具合事例等を参照のうえ、環境に対する負の影響を特定し、回避・緩和策を講じたことを確認した。

GBPにおける資金使途の分類:

- | | |
|--|---|
| <input checked="" type="checkbox"/> 再生可能エネルギー | <input type="checkbox"/> エネルギー効率 |
| <input type="checkbox"/> 汚染防止及び管理 | <input type="checkbox"/> 生物自然資源及び土地利用に係る環境持続型管理 |
| <input type="checkbox"/> 陸上及び水生生物の多様性の保全 | <input type="checkbox"/> クリーン輸送 |
| <input type="checkbox"/> 持続可能な水資源および廃水管理 | <input type="checkbox"/> 気候変動への対応 |
| <input type="checkbox"/> 高環境効率商品、環境適応商品、環境に配慮した生産技術及びプロセス | <input type="checkbox"/> グリーンビルディング |
| <input type="checkbox"/> 発行時点では明らかでなかったが、現時点においてGBP分類に該当することが予想される、または、まだGBP分類に含まれていないが適格グリーンプロジェクト分野と思われるもの | <input type="checkbox"/> その他 |

GBP以外のタクソミー(プロジェクト分類)を使用している場合はそれを特定すること。:

2. プロジェクトの評価と選定プロセス

本項目に係るコメント欄：

発行体は資金使途について、明確な環境面での目標、プロジェクトの選定基準およびプロセスを定めている。当該事項は、JCRによる評価レポートの中で開示されている。

評価と選定

- | | |
|---|---|
| <input checked="" type="checkbox"/> 発行体の環境面での持続可能性に係る目標が定められている | <input checked="" type="checkbox"/> 対象事業が選定基準分類に適合していることを決定するプロセスが文書化されている |
| <input checked="" type="checkbox"/> グリーンボンドの資金使途としての適格プロジェクト基準が定義され、透明性が確保されている | <input checked="" type="checkbox"/> 事業実施に伴うESGリスクの可能性が特定され、管理されるプロセスが文書化されている |
| <input checked="" type="checkbox"/> 事業の評価と選定基準の概要が公表されている | <input type="checkbox"/> その他 |

責任及びアカウンタビリティに係る情報

- | | |
|--|---|
| <input type="checkbox"/> 評価・選定基準は外部からのアドバイスまたは検証を受けている | <input checked="" type="checkbox"/> 社内で評価している |
| <input type="checkbox"/> その他 | |

3. 調達資金の管理

本項目に係るコメント欄：

- 本私募債で調達した資金は太陽光発電設備の建設資金に対するリファイナンスに全額充当される予定であり、これ以外の目的に充当される予定はない。また、本私募債で調達した資金は本私募債発行時点で一括充当される予定である。
- 本私募債で調達した資金は専用口座において管理が行われ、全額が資金使途のグリーンプロジェクトに紐付けられる。当該資金管理はウエストホールディングスおよびウエストエネルギーソリューション各社が定める職務権限基準に基づき、確認が行われる。
- 入出金に関する帳票や金融機関との契約書といった資金管理に関する文書および電子ファイルについては、本私募債の償還期間まで保存される予定である。
- 本私募債で調達した資金の管理については年度毎の計画に基づいた監査が行われる。
- 本私募債で調達した資金は本私募債発行時点で一括充当されるため、未充当資金は発生しない。また、未充当資金が発生しない旨は投資家に対しても面談等において開示されている。

調達資金の追跡管理：

- | |
|--|
| <input checked="" type="checkbox"/> グリーンボンドの調達資金は分別管理され、または適切な方法で発行体によって追跡管理されている。 |
| <input checked="" type="checkbox"/> 未充当資金の一時的運用方法について、開示されている。 |
| <input type="checkbox"/> その他 |

追加開示事項：

- | | |
|---|---|
| <input type="checkbox"/> 新規投資への充当のみ | <input type="checkbox"/> 既存・新規投資両方への充当 |
| <input type="checkbox"/> 個別の支出に充当 | <input type="checkbox"/> ポートフォリオベースの支出に充当 |
| <input type="checkbox"/> 未充当資金のポートフォリオバランスを開示 | <input checked="" type="checkbox"/> その他
・ 既存投資への充当のみ |

4. レポーティング

本項目に係るコメント欄：

a. 資金の充当状況に係るレポーティング

ウエストホールディングスは、本私募債の資金使途である太陽光発電事業の口座管理状況について、投資家に対して半年ごとに開示する予定である。また、本私募債で調達した資金は全額リファイナンスで即時充当される予定であることから、未充当資金は発生しない。

b. 環境改善効果に係るレポーティング

ウエストホールディングスは、本私募債の資金使途である太陽光発電事業の発電状況および発電量について、投資家に対して半年ごとに開示する予定である。

資金使途のレポーティング：

個別プロジェクト・ベース

プロジェクトのポートフォリオ・ベース

個別債券への紐づけ

その他

レポーティング情報：

充当金額

投資額に占めるグリーンボンドによる資金充当の割合

その他：

頻度：

年に一度

半年に一度

その他：

インパクトレポーティング：

個別プロジェクト・ベース

プロジェクトのポートフォリオ・ベース

個別債券への紐づけ

その他

頻度：

年に一度

半年に一度

その他：

レポーティング情報（理論値または実績値）：

GHG 排出量 / 削減量

エネルギー削減量

水使用削減量

その他ESG指標
・ 発電量

開示方法

- 財務諸表における公表
- アドホック（非定期）刊行物における公表
- レポートの外部レビュー
資金充当状況及びインパクトレポートが外部レビュー対象
- サステナビリティレポートにおける公表
- その他：
・ 投資家または貸付人向け開示

有用なリンク

株式会社ウエストホールディングス Webサイト	https://www.west-gr.co.jp/company/outline/
JCRのグリーンファイナンス評価手法	https://www.jcr.co.jp/greenfinance/

外部レビューを受けた場合、その種類

- セカンド・オピニオン
- 検証
- その他:
- 認証
- スコアリング/格付け

レビュー提供者: 株式会社 日本格付研究所

公表日: 2020年2月25日

グリーンボンド原則に定められた、独立レビュー業者の役割

- 1. セカンド・パーティ・オピニオン**：環境に関する専門知識を持ち、発行体から独立した機関は、セカンド・パーティ・オピニオンを出すことができる。そのような機関は、グリーンボンドフレームワークに関する発行体のアドバイザーからの独立性や、情報障壁など適切な手順を機関内に設け、セカンド・パーティ・オピニオンの独立性を保証することが必要である。セカンド・パーティ・オピニオンは通常グリーンボンド原則への準拠に関する評価を伴い、特に、発行体の包括的な目標、戦略、環境に関する持続可能性に関する方針および（または）プロセスおよび資金使途となるプロジェクトの環境に関する持続可能性の評価が含まれる。
- 2. 検証**：発行体は、ビジネスプロセスに関するおよび（または）環境基準についての設定された基準に関する第三者検証を受けることができる。検証は内部または外部基準または発行体による目標に沿っているかにフォーカスする。また、対象資産の環境に関する持続可能な特徴の評価は"検証"と呼ばれ、外部基準を参照することができる。発行体の資金管理、グリーンボンドによる調達資金の配分に関する内部追跡システム、環境へのインパクトまたは、グリーンボンド原則への準拠に関する保証または証明も"検証"と呼ぶことができる。
- 3. 認証**：発行体は、グリーンボンドフレームワークに関連したグリーンボンドまたは資金使途は、認識されている外部グリーン標準・ラベルの認証を受けることができる。標準またはラベルは、特定の基準を定義し、その定義は認証基準に沿っているかを証明できる能力を有し、認定された第三者機関によって、その基準に沿っているかどうかを検査される。
- 4. グリーンボンドスコアリング・レーティング**：発行体は、グリーンボンドフレームワークに関連したグリーンボンドまたは資金使途は、スコアリング・レーティング手法を有している専門調査会社や格付機関といった第三者によって評価もしくは調査されることができる。成果物は、環境改善のデータ、グリーンボンド原則に準じたプロセスまたはその他2度目標などのベンチマークにフォーカスしたものが考えられる。スコアリング・レーティングは、重要な環境リスクを反映しているとしても信用格付とは明確に異なる。